

CSWが判断力つけて



事業の課題や各地の状況を報告しあった

社会福祉法人が都道府県による基金を設け、研修
府県単位で行う社会員を受けたコミュニケーション
事業について情報をイブソーシャルワーカーの
共有しようとして7日、推カ（CSW）らが生
進会議が横浜市内で開活の困りごとの総合相
かれ、約90人が参加し、談・支援、現物給付に
た。実施主体は持ち回による経済的援助などを
りで、今回は神奈川県行うもの。
社会福祉協議会が担当 2004年に全国に
した。
社会貢献事業とは、り、法人の地域公益活
社会福祉法人の拠出に動が求められる中、全

先駆けて大阪で始ま

法人連携の社会貢献 社協担当者らが報告

国社会福祉法人経営者 大阪の3府県の社協な
どが状況報告と意見交
換を行った。3府県か
らは「法人の地域公益
会議の前半では、今
年度から事業を始めた
活動への認識はまだ十
分ではない。法人の責
務だと強調して事業へ
の加入を促しては」
（埼玉）、「事業の対
象になるかの判断基準
を示すよう言われる
が、CSW自身が判断
する力を養うことが重
要。若手の経営者も巻
き込んでほしい」（神
奈川）、「今行ってい
る事業が社会貢献だと
いう法人もいるが、間
違っている。それでは
法人のミッションは満
たされない。必要だと
思った時に活動を起こ
す強い意思が大切だ」
（大阪）といった助言
があった。

コーディネーターを
務めた河幹夫・神奈川
県立保健福祉大教授は
「一律に同じ形で答え
が見つかるわけではない。
変化する社会の
ニーズに対応すること
が求められる。やりな
がら何が必要かを考え
ることは本来、法人の
仕事ではないか」とま
とめた。

香川、熊本、大分の3
県の社協が、準備過程
や開始後の課題などを
報告。
後半では既に実施し
ている埼玉、神奈川、